

第3回

怖い歯周病！

～原因・症状・治療・予防まで分かりやすく解説します！～

皆さんは日本人の成人の大半80%が罹る病気をご存じでしょうか？

それは「歯周病」と、その予備群とされる「歯肉炎」です。歯周病は自覚症状もほとんどなく進行し、気づくと重篤になってしまう恐ろしい病気です。年齢も関係無いとされ、日本では20代後半から歯周ポケット（歯と歯ぐきの間にできる溝）が深くなる傾向がみられ、30代～40代になると罹患率がさらに増加します。40代以上になると大よそ50%以上の方が中等度以上の歯周病を患っていると云われています。70代以上になるとさらに進行し歯の喪失だけでなく全身の健康にまで影響を与える可能性があります。最近の研究では、心筋梗塞や狭心症などの心疾患、脳梗塞、アルツハイマー型認知症、妊婦の低体重児出産、早産などの関連が明らかとなり、腸内細菌との関わりについても示唆されています。歯をどんなに磨いても消えない口臭、ねばねば感、歯の黄ばみで困っていませんか？この他人事でない、怖いサイレントキラーについて、あなたの人生を変える歯の新常識を最新知見や治療も交え分かりやすく解説します。

日時

2026年 11月6日(金)
9：30－11：00（質疑応答含む）

会場

本社



講師
田北デンタルクリニック
田北 行宏 先生

医療法人社団 田北歯科理事長

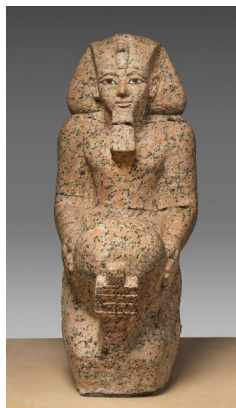
1964年生まれ。

アメリカ、サンディエゴのメサカレッジで生物学を学んだ後、日本大学松戸歯学部に入學。卒業後は日本歯学センターに勤務し、スウェーデンやフィンランドで学んだ予防歯科と最先端歯科医療に取り組む。2014年に日本歯学センター院長就任。

その後歯科医院名を、田北歯科として、現在に至る。

メディカルトリビア — ちょっとタメになる話 —

ウソか、ホントか？ —古今東西・歯がイノチ？—



今昔問わず世の女性の憧れのマト、男装の麗人。今から3500年前のエジプト。頭脳明晰で政治的手腕に長けたハトシェプスト女王。

セルフブランディング力にも優れ、男装の麗人として有名な女王の治世は、内・外政ともに隆盛を極め、エジプトが最も平和な時代だったと云われています。教育ママとしても有名だった女王ですが、その死因は歯周病及び関連の糖尿病。日本でも戦国時代は信長、秀吉も歯周病に悩まされていたそう。とりわけ美形で有名な織田一族。ルイスフロイスによると信長との謁見時、歯がほとんど抜け落ちていたとも。

質素儉約家の家康が患っていなかったのは流石ですね。

（文責：株式会社Arxs）